

国内アウトリーチレポート

They that sow in tears Shall reap in joy. Psalms126



CHRIST FOR THE NATIONS JAPAN BIBLE SCHOOL

2021年7月9日～13日



奇跡のアウトリーチ

今回のアウトリーチはドキドキの幕開けだった。

本当にアウトリーチに行けるのだろうか…。

本来、学院では2年に1回は海外アウトリーチへ行っていて、今年は海外の予定だった。しかし、コロナの影響で、国内に変更を余儀なくされた。だが、それさえも危ぶまれたのだった。

準備段階で緊急事態宣言が出されており、「アウトリーチ実施までに解除されるのか」「飛行機は飛ぶのか」などの心配があった。道内の移動でも、コロナ率が増えている札幌(石狩)の学院から行くことを、教会に受け入れてもらえるのか…。ギリギリまで変更が相次いだ。

そんな中で、奇跡的に、主は扉を開かれ、快く私達を歓迎してくださる教会を与えて下さった。
牧師&宣教師夫妻の決断には本当に感謝である。

また、アウトリーチは実習の一環であるが、今学期の実習テーマとして、主から「種まき」が与えられていたので、アウトリーチのテーマも「種まきと収穫」に決まった。

”涙とともに種を蒔く者は喜び叫びながら刈り取る。
種入れを抱え泣きながら出て行く者は束を抱え喜び叫びながら帰って来る。”
詩篇 126 篇 5～6 節

さらに、アウトリーチ出発前のキックオフで、学院長からポイントとなる御言葉を賜った。

”良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあって、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。”
イザヤ書 52 章 7 節

そして、私たちは、開かれた4つの場所へと遣わされて行ったのです。

それでは、アウトリーチで学院生一人ひとりが何を感じ取ったのか、レポートをご覧ください。

小樽チームアウトリーチレポート



(メンバー)

松元 一

秋山 耕平

藤原 千歌

結城 直子

2021年7月9日～7月11日

恵み人の只中にて受けとる神様の恵み



小樽ベテルキリスト教会 CFNJ アウトリーチ タイムスケジュール

9日(金)

10:00 学院出発
11:30 【庄坊番屋】にて昼食
13:00 教会到着 オリエンテーション、祈り
14:00 トラクト配布
16:30 配布終了
17:00 入浴・夕食
19:30 金曜祈り会
22:00 就寝

10日(土)

8:00 朝食
9:00 デボーション 祈り
10:00 教会内・外の清掃、トラクト折り込み
12:00 昼食
13:30 会堂集合 打ち合わせ
14:00 トラクト配布
16:30 配布終了、天狗山へ
17:00 自由時間、小樽散策、夕食、入浴
22:00 反省会→就寝

11日(日)

8:00 朝食
9:00 勝納川沿いでデボーション
10:00 日曜学校(会堂集合)
・賛美・DVD・5分メッセージ・飛行機飛ばし・動物将棋
12:00 昼食
13:30 会堂集合 礼拝準備・祈り
15:00 主日礼拝
・カホン(耕平)・証(耕平、千歌、直子)
17:30 礼拝終了、教会発
18:00 夕食【銭箱大山】
20:00 学院着

「恵み人の只中で！！」 ALPS 生 松元 一

今年のアウトリーチは「小樽ベテルキリスト教会」！！！！

今学期は松本先生の授業を受けていたため、伝道に熱く、弟子訓練を積極的にやっていると聞いていました。そしてアウトリーチ前からトラクトを配りに行くと聞き、行く前からワクワク、ドキドキしていました。

教会に着き、「祈りと戦略会議」！！着いたその時には他の教会員の方も集まっていて、すでに戦闘モードで、やる気がみなぎっていました。戦略会議の中で先生が「聖霊さまにおまかせしましょう」と一言おっしゃった時、ますます出ていくことが楽しみになってきました。小樽には3回くらい行ってはいたのですが、今までに行ったのは観光地区。しかし今回は住宅地、しかも山の上に家があり、大きな坂までありました。そんな中、一日目に同じチームになった教会員の女性は元気にトラクト配布をしていました。暑い中笑顔で、一枚一枚祈りながら配っていました。そんな姿を見て内側から喜びが溢れてくるような感じになりました。

実をいうと、アウトリーチ期間中僕は常に喜びで満たされていたのです。何があっても、普段ならちょっと気にするようなことが起きてもずっと喜びが先行し、怒ったり、嫌な気持ちになったりすることがなかったのです。多分それは一日目に一緒にトラクトを配っていた女性の喜びが僕に伝染したのではないかなと後から思いました。

三日間通して思ったことは「小樽ベテルキリスト教会」の人たちは本当に心から喜んで、楽しく神様に仕えているのだと思いました。

喜び。真の喜び、聖霊様が人の中に満ち溢れている時、人も状況もそれを奪うことも、揺るがすこともないのだと実体験できました。「ただ聖霊様にお任せする」。まさにキリストに生きる者の真骨頂であるということであらためて体験させてもらいました。

そしてもう一つ。人との関わりと弟子訓練。関わりの中で人を知り、キリストを伝える。

今回小樽にいる期間の中で少年を通して神様の働きを見ました。教会の向かいで遊んでいた少年。その少年を牧師婦人の由香さんが見かけ声をかけに行き、話していました。短時間のコミュニケーションだったけど、確実に神様の働きの第一歩がなされたのだと確信できました。それを近くにいないから見ることしかできなかった自分。

一步を踏み出すことの大切さと、踏み出せなかった悔しさをひしひしと感じました。

それでも神様はいつも働いている！！ハレルヤ~~~~~主に感謝です。

「JOY of Outreach アウトリーチの喜び」

1年生 結城 直子

ハレルヤ！この小樽ベテルキリスト教会へのアウトリーチは、今回のアウトリーチTシャツの“JOY”と、“涙と共に種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。”の御言葉を味わう恵みを頂きました。

《JOY》

私がこの学院に入学する道は、自分の頑張りによって乗り越えようと頑張り、主に怒っている“マルタの心”を悔い改めたところから始まりました。天のお父さんの愛を受け取る心が回復され、喜びで始まった学院生活のはずが、しばらくすると“やりたいこと”と“やらねばならないこと”に追われた私の心は、裁く思いの虜になり始めていました。どうして喜び従い仕えたいのに、この目は、この心は違うものばかり追うのか、悩む日々、授業で語られます。“なんと自己義に満ちた…！”“聖霊により悔い改めが…！”頭で理解したすべてのことを、聖霊様によって受け取ることを求めつつアウトリーチへ導かれました。

初日に松本牧師が“トラクト配布に行きますが、自分の力で頑張らないでください。聖霊さまにゆだねましょう。天の父の御業に共にあずからせていただくことはなんという喜びでしょう。”と語られ、それに“アーメン！”と力強く応える信徒の方々。喜んで仕える霊に満たされているのを見、心が震えました。

二日が過ぎたころ、失敗して赦される体験を通して、失敗を恐れて頑張ろうとしていた自分が、天のお父さんは失敗も赦し益と変えてくださる！ハレルヤ！という心に変えられたことに気付かされました。恐れからくる頑張りが私に怒りをもたらしていたこと、それが聖霊様によって取り去られたことを体験し、入学前に悔い改めたことを捨てきったような、やっと認識して受け取ったような思いで、心は喜びに満ちていました。

《喜び叫びながら刈り取ろう…》

トラクト配布の道中、牧師先生ご夫妻から、“関係づくり”についてお話を伺いました。伝道として行っているのは関係づくり、それに尽きると。伝えようとするのではなく、その人のことを聞く、そしてその人の喜んでおられることを共に喜ぶ。その人の問題を共に担う。その先生方の姿勢に、人々の心は開かれ、信頼関係を築くことができていると。語られることに感嘆して教会に到着すると、花壇に色づく“マルコ”と名付けられた赤スグリの実を一粒いただきました。

私にとってのアウトリーチは、小樽ベテルキリスト教会の方々が蒔き、水をやり、祈られて実ったその豊かな実りを味わわせていただく、その喜びいっぱいの日々間だったと感じます。私たち4人を暖かく迎え入れ、イエスさまが愛されたように愛してくださったこの小樽ベテルキリスト教会の皆様に心から感謝します。ここに遣わすことを計画してくださっていた天のお父さんの愛に感謝します。そして共に喜び、祈り励まし合える小樽チームをくださった天のお父さんの慈しみに感謝します。家のことは任せてと送り出してくれた夫と子どもたち、執り成し祈ってくださった神の家族の皆様、そしてすべてをくださった天のお父さんに、心から感謝します。

「再び!!ハレルヤ!!」 ALPS 卒業生 藤原 千歌

昨年に続き今年も小樽ベテルキリスト教会に伺えるのを大変心待ちにしていました。去年は、松本先生と奥様の由香さんをはじめ、信徒さんのお一人お一人が主の弟子として喜びをもって仕えられ、主の愛に溢れている温かい教会に感動し、日曜学校での子どもたちとの交わりでは主の喜びに満たされ、ぜひまたお伺いしたい！と思わされていたのです。

今年、さらに楽しみしていたことは、アルプスコースの授業で松本先生が講義してくださった「実践 牧会・伝道」の学びを、実際に牧会されている教会で改めて体験できること、そして普段はなかなか一緒に出掛けることがないメンバーで過ごせること、事前にリサーチしていたお店での食事でした！

教会に到着すると「再び、ハレルヤ!!」で主の愛、ご臨在に、実家に帰ったような心地よさを再び味わい感謝でした。その後、トラクト配布の準備をし、二日にわたり小樽の住宅街へのトラクト配布をしました。小樽は坂道が多く、家を水平に建築するために基礎を長くして調整している家が多くあります。そのため、玄関まで階段を上る必要があり、トラクト配布兼体力 up トレーニングをしているようでした。高台に車を止め、トラクトを配布し終わると車に戻り少し坂を下り、トラクトを補充し、また出かけてトラクトを配布します。北海道の家は、冬季の冷気、雪侵入防止のため二重玄関の造りが多く郵便受けにトラクトを入れるために、外側の玄関扉を開け内側扉付近の郵便受けに入れます。この階段を上り玄関扉を開ける間、特に祈りに導かれました...この家の方々は、この階段を上り下り、ここを開け閉めされて日々過ごされているのか、人生を過ごされているのか...人生の土台に真実の神様を知ってほしい...

今回も、金曜祈禱会、主日礼拝での賛美、メッセージでは主のご臨在満ち溢れ、主日礼拝では学院生の証しも祝福され、学院生のために教会の皆様がお祈りくださり大変、励ましを受けました。日曜学校でも工作、ゲームなど、主にあつての交わりを楽しみ、子どもたちの存在そのものが愛おしく、何をしてもかわいくて心潤いました!神様も私たちのことを、このように感じられるのだらうなあと子どもたちを通して神様の愛を実感でき感謝でした。

学院生が仕え、奉仕、交わりをさせていただく予定のアウトリーチは、いつも訪問先の教会から、たくさんの方の祝福、励まし、癒し、潤い、力、喜びを頂きます。今年も、ただ感謝でした！松本先生、由香さん、信徒さんお一人お一人が、松本先生のメッセージで語られた、「みことばに土台を置く」「見えるものではなく見えないものに目を向ける」ことをされているからこそ、教会に主のご臨在があり、皆様を通して主の愛が現されるのだなあと、松本先生の学院講義での「信徒さんお一人お一人を主の弟子とする」学びを思い起こしました。

霊的な強い土台の元にある神の家族の愛を、実感しました。霊的な土台にあるものは、「みことば」であり、小樽ベテルキリスト教会の年間聖句ヨハネ 1:1~5「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」が、皆様の中で霊的な土台となり、主の働きとしての現れを私たち学院生が体験させていただいているのだと感動しました。みことばの力は、学院生メンバーとのデボーションでみことばを輪読している中においても、霊的な力を与えられ、霊が強められ励まされました。

今回のアウトリーチでは主のご臨在の中での、いつも変わらぬ神の家族の愛の現れには、霊的な土台、みことばが置かれることが不可欠であり、本当にみことばは霊でありいのちであると再認識しました。ハレルヤ!! 感謝します。

「主に喜んで仕える」 1年生 秋山 耕平

ハレルヤ!!今回、小樽ベテルキリスト教会へ二泊三日のアウトリーチ期間で改めてあらゆる場面で「喜び」を感じる事ができました。今回のアウトリーチにあたって学院でシェアされたみことば

詩篇 126 篇 5 節

「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。」

そして、個人的に受け取ったみ言葉は

ローマ 10 章 15 節

遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいとか」と書いてある通りです。

このみ言葉から自分は、わたしたちが福音を伝えに行ってるのではなく、主がわたしたちを遣わしてくださっているから、わたしたちは福音を語る事ができているんだなと改めて実感しました。それと同時に、主がわたしたちを遣わしてくださっているということは本当に喜びだし、喜んで仕えたいと思いました。今回、みんなで二日間トラクトを配りました。母教会でもトラクト配布はした事があったけど、北海道ならではの二重扉の家が多く、気温も少し高かったため人もあまり外に出ていなかったのも、声をかけながらのトラクト配布はできなかったけど、一枚一枚配るときに、主の豊かな豊かな祝福がありますようにと祈り、家に配ることができました。そして、二日間のトラクト配布でそれぞれ小樽ベテルキリスト教会の別の教会員の方と一緒にトラクト配布をしましたが、本当にみなさん喜んで主に仕えているなと感じました。三日間小樽ベテルキリスト教会の方々と一緒に奉仕をさせていただいて、この教会の一人一人が主に喜んで奉仕されているなと感じました。そして三日間体調も守られ全ての奉仕が主に祝福され大きな問題なく主に守られて過ごせたこと、心から感謝です!



天狗山



朝の勝納川ディポジション



送ってくれたショウゴ & まなみ



トラクト配布出発

岩見沢市一



2021年7月9日～12日

【スケジュール】

7月9日(金)

- 8:30 学院出発
10:00 教会到着
10:30~12:00 畑仕事
枝や丸太を集めて運んだり、畑中に牧草の種を撒いたり、チェーンソーで丸太を切ったりなど。
12:30~14:30 温泉&ランチ
Josh さんの家へ丸太運び
娘のアンナちゃんと少しだけ公園
17:00~ 夕食 はるかさんからコストコのピザ
18:00~ 祈り会準備
19:00~20:30 祈り会
賛美リード:雄基、証:ことは・めぐみ
キッズ英会話に出ていたシングルママさんと二人の子ども達が参加。
聖霊の導きによるワーシップ、父(両親)との和解の証・母の癒しの証。
21:00 明日の準備、就寝

7月10日(土)

- 7:30 デボーション
8:15 朝食
9:00~ 準備
10:30~12:00 キッズイベント
・ダンス賛美 3 曲・ゲーム・お話
12 人の女の子達(主に小学 4 年生)が集められる。
全体的に楽しんでくれて、お話の最後にした招きの祈りもほぼ全員が祈っていた。
13:00 フィリピン人の男性が営むパン屋へ
教会で休憩
16:00 頃 チーム内で分かち合い
互いのための祈り。喜びの霊が注がれ、楽器やタンバリンなどを用いて自由に賛美！
18:00 トラクトポスティング
20:00 夕食&温泉
23:00 帰宅、就寝

7月11日(日)

- 7:30 デボーション
9:30 昨日のパン屋の従兄弟が売る野菜を買いに。
10:30 主日礼拝
 賛美リード:めぐみ、メッセージ:ダニエル「イスラエルの召しと私たちの召し」
12:30～ トラクトポスティング
13:30～ 教会員の引っ越し手伝い
 旦那さんの純喫茶・奥さんの洋服のお直しスペース。
 手伝いに来ていたノンクリスチャンの娘さん夫妻とも交わる。
18:00～ BBQ&花火
21:30～ 温泉
23:00 帰宅、就寝

7月12日(月)

- 9:00 賛美と祈り、朝食
10:00～ 宮きよめ
12:00 昼食 ハンダチャーハン
14:00～16:00 グリーンランド
16:30 教会出発
18:00 学院到着

「主によって心が探られ、調べられたアウトリーチ」

ALPS 生 ハンダ ダニエル ケンジ

ハレルヤ 主の素晴らしい御名を賛美し、たたえます。今回のアウトリーチが私の最後のアウトリーチとなりました。アウトリーチが終わった後、二つの聖書箇所が私の心に凄く残りました。

詩編 19:14「私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、主よ。」詩編 139:23～24「神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。」あまりアウトリーチに関係しない聖書箇所であると思いますが、自分がこのアウトリーチに向かう 2 週間前はとても忙しかったです。学院の多くの奉仕やイベントがありました。それらイベントから私は多くの学びと多くの恵みを受け取る事が出来ました。しかし、自分の心はボロボロの状態でした。私は自分の状態をあまり自分自身で自覚する事がないので、他の人から言われて自分の状態を自覚します。アウトリーチの仲間からも「大丈夫？」と心配されるほどでした。自分は「大丈夫だよ！」と答えるだけでした。それは自覚が全く無かったからです。そんな中で主はこのアウトリーチを通して自分の心の状態を少しずつですが現わしてくれました。

私が今回のアウトリーチでお世話になった教会は岩見沢シオンキリスト教会でした。以前から教会の事は知っていましたので、馴染む問題は全くありませんでした。アウトリーチの 1 日目の夜に祈り会がありました。その祈り会で、聖霊様は賛美や証や祈りを通して力強く働いて下さいました。主はその時から私の心に触れ始めてくれました。

2 日目の夕方にアウトリーチメンバーと岩見沢教会の奉仕者と宣教師であるジョシュアさんと一緒に祈る時間がありました。その一時の中で素晴らしい主の力強い臨在の顕現がありました。

その時、自分の内の心から出た叫びと告白は、「イエス様あなたを愛しています。あなたが私の源です。」そこで、自分の心が主に物凄く飢え渴いていた事に気づきました。また、自分の心があまり良い状態ではない事に気付く事が出来ました。次の日には自分はメッセージを任されていました。私は主に何を語れば良いのか聞いていました。そんな中で主に語られた言葉は「神様は御自身の栄光をただ単に現わす事よりも、人を通して御自身の栄光を現す事を望んでいる。」と語られました。翌日の礼拝で、私達がありのままの姿で主の栄光を現すために召し出されている事をシェアしました。このメッセージは確かに礼拝に集っていた皆さんへの言葉であったと思いますが、その後、良く考えたら自分へのメッセージであった事に気づかされました。私の心を探り、調べられる方である主は、私の心の状態を知りながら、それでもなお、私を通して御自身の栄光を現して下さいとうとするこの恵みが素晴らしいと思わされました。この体験と啓示を与えてくれた主に全ての栄光をお返しします。そして、私達チームを快く歓迎してくれた岩見沢シオンキリスト教会の宣教師であるジョシュアさん、遥さん、とてもお世話になりました。ありがとうございます。

また、教会員の皆さんもありがとうございました。皆様のおかげで貴重な体験をさせていただきました。また、アウトリーチメンバーの一人一人が私の事を心配してくれて、また祈ってくれた事が助けとなりました。本当に感謝します。

全ての栄光と誉れを主にお返ししてこのレポートを終えさせていただきます。

「すべては主の恵みにより」 ALPS 卒業生 金子 言葉

このような困難な時代に喜んで私たちを迎え入れてくださった岩見沢シオンキリスト教会のジョシュさん、はるかさん、兄弟姉妹の皆さまに心から感謝をお伝えしたいです。大きな大きな愛、励まし、おもてなしを本当にありがとうございました。

今回の岩見沢アウトリーチは、今学期で CFNJ 聖書学院を卒業した私にとって最後の学院アウトリーチとなりました。忙しい日々の中でなかなか入念な準備は出来ずに当日を迎えましたが、それぞれの素晴らしい賜物が十分に発揮され、何よりも一人一人の存在がそのまま主の器として用いられていたことに感謝します。ダニちゃんが日曜日のメッセージで語ってくれたように、主は、肉をもつがゆえにどうしようもなく弱い私たちのすべてを覆い、その上でありのまま用いて主の栄光を現わしてくださるお方。四日間あっという間でしたが、すべてが主によって覆われ、赦され、受け止められ、愛されている、その圧倒的な主の愛だけが私たちの救いであることを思いながら過ごす時でした。そしてそれは、私のこの三年間の学院生活において、主との関係の中で繰り返し繰り返し受け取り続けてきたことでもありました。私が聖いのではなく、私が充分なのでもなく、ただ私の主イエスキリストが聖く、完全であること。そんな美しいイエス様が、私のすべてが美しく、聖く、このありのままで充分なのだと、絶えず私に語りかけて下さっていること。改めて、この美しい主の愛とあわれみ、恵みをただ思い、感謝します。

初日の夜の祈り会で賛美奉仕をしながら、主の愛にひたすら感動をおぼえました。この教会は主の霊、主の心が自由に働きやすい場所なのだと感じ、それは、ただ人として優しく温かいだけでなく、教会全体の心が主によって柔らかく開かれているからこそなのだと思います。土曜日の子供イベントも、なんと十人以上集まり、子供たちは皆私たちと一緒に喜び楽しみながら歌って踊って、ゲームで遊んで、それだけでなくメッセージも静かに聞き、最後のお祈りも声に出してお祈りしてくれていました。そのような光景の土台、また背景にあることの一つは、宣教師のロスご夫妻をはじめ、この岩見沢の教会が常日頃から地域の方々に対し心を開き、積極的に関係を築いていることだと思います。お二人が宣教師としてこの教会に遣わされた時から、苦しい時は沢山沢山あったと分かち合ってくださいましたが、私個人としては、岩見沢教会とご夫妻を通して、教会のリーダーとなること、牧会することの喜びや希望を改めて感じ、励まされました。

この四日間、チームの皆と共に、苦しかったことも全て含めて学院生活最後の恵み溢れる時を過ごすことが出来ました。私を受け入れてくれたチームの皆、とりなし支えて下さった方々、そして何よりも愛する愛する私の主に、心から感謝します。

「主はシオンに、岩見沢に、住まわれる！」 1年生 仲井 恵

私にとって学院で初めてのアウトリーチは、本当に期待以上、恵みに満ちた短くも色濃い期間でした。今年の春から来たばかりの北海道において、この地の救いに対する熱意をもっと与えられたいと願い、地域のことを少しでも知りたいと思って道内を希望しました。今回お世話になった岩見沢シオンキリスト教会は、地域との積極的な関わり・交わりをととても大事にしていると感じました。私達が宣教師方からお願いされたことも、フィリピンの方が近所で営むお店のパンや野菜を買いに行くことや、まだ救いに至っていない友達の家にあいそびに行きたくてほしいなど(残念ながら会えませんでした)、フェローシップが中心でした。この教会が主の熱意をもって関係を広げ、保ち、何年も続けてこの地の救いのために祈ってきたことがすぐに伝わりました。アウトリーチ初日の祈り会には初参加のノンクリスチャンの親子が導かれ、翌日のキッズイベントではなんと 12 人もの女の子が集められ、証や福音を伝えることができました。私達のように外から来たチームが、順調に、想像よりも多くの種まきができしたのは、この土地を耕し続けた教会の労苦や祈りがあったからだと感じます。

私は個人的なビジョンの1つとして、詩篇 149:3 で命じられているように、礼拝での踊りの回復を日頃から祈っています。また、子ども達に伝道することに、特に喜びを感じます。今回キッズイベントに子ども達が多く集められただけでなく、彼女達の心が開かれていて、すぐに仲よくなることができ、ともに喜び踊りながら賛美できたこと、自作の絵本を用いてイエスさまを紹介できたことが嬉しかったです。さらに子ども達がそれを実際の話として受け止め、招きに答える祈りをほぼ全員が声に出して祈っていたことに驚き、聖霊さまが確かに働かれていることを感じ感激しました。教会ではこのようなキッズイベントを増やしていくと仰っていました。子ども達とその親御さんが教会に根付き、真理を求める心が駆り立てられるよう、覚えて祈り続けます。

また2日目の午後、何も予定がなく休んでいた時に、宣教師のジョシュアさんの呼びかけでチーム内の分かち合いと祈り会が始まりました。聖霊さまを求めて礼拝していくうちに喜びの油が注がれ、気づくとタンバリンや楽器を用いて、皆が飛び跳ねて踊りながら主をほめたたえていました。ダニエルくんが翌朝の礼拝メッセージでも伝えていましたが、私達を通して主は救いを起こされるということを示され、皆で互いのために祈り合いました。先述した通り、この地の救いに対する熱意を求めていましたが、確かに自分の中のその思いがアップグレードされて、直後喜びに満たされてトラクトを配りに行くことができました。

岩見沢シオンキリスト教会のスタッフ・教会員の皆様、本当にたくさんの愛を現してくださりありがとうございました。特にジョシュアさん、はるかさん、多く与えてくださって、それでもなお毎回「必要な物はないですか」と聞いてくださって、物質的援助も、とりなし祈りや励ましの言葉も、1つ1つの愛を心から感謝いたします。またチームメンバーや、この教会に仕える卒業生達との時間も、とてもリラックスして過ごすことができ、全員に支えられ本当に助けられました。ありのままの私を受け入れ、愛してくれたメンバーに感謝します。最後に、すばらしい神様にすべての栄光をお返しし、最大の感謝をおさげします！

「全ては神の計画と導きの中に」 2年生 伊藤 雄基

まずは今回岩見沢アウトリーチに行くことができたことを神様に感謝します。

今回行った岩見沢は、学院の卒業生が2人もいる場所でした。しかもそのうちの1人はこの間の3月に卒業したばかりでよく知っている人でした。そして、向こうにいる宣教師のジョシュアさんの家族も、教会の方々も温かく迎えてくださったので、緊張することなくすごくアットホームな感じで4日間を過ごすことができました。

今回このアウトリーチで僕が心に残った二つの出来事があります。それは金曜日の祈り会と、土曜日の子供イベントです。今回のアウトリーチで私が金曜日に祈り会をリードすることが前から決まっていたのですが、行く前に、個人的に色々あって十分に心を整えていくことができませんでした。

なので、こんな私が賛美リードしていいのか、祈り会を導いていいのかわからなくなり、とても不安でした。もっと祈って準備しておけばよかったという後悔や、神様に対して申し訳ない気持ちがありました。しかし、始めると天が開けたように感じ、もの凄く賛美があふれ出てきました。みんなの心が一つになるのを感じ、共に神様を喜びのうちに賛美することができました。霊の歌が止まらなくなり、ともに、声が枯れるほど、神様を賛美しました。最初私達は、その祈り会では未信者はいない、教会のリーダーたちだけだと聞いていました。しかし、その日あった教会の英語クラスの生徒のお母さんが、その祈り会に参加しているのを祈り会が終わってから知りました。

そして、その次の日の土曜日にも子供のイベントをする予定でした。最初は向こうの先生方も、5人ちょっと集まればいい方かなと思っていたのですが、実際は10人以上の子供達が集まりとてもびっくりました。教会の4年生の女の子の友達、学校の同級生達がたくさんやってきました。彼女達は元気よく賛美し、楽しく遊び、そして学院生によるオリジナルの神様の愛について書いた絵本を読んで聞かせた時に、とても素直に真剣に聞いていました。彼女達と過ごした時間はとても短かったですけど、彼女たちも福音が必要で色々な問題を抱えているんだなということを感じました。

彼女たちに蒔かれた福音の種がいつかきっと芽生えて、天国でまた彼女達と会うことができることを信じています。

他にも畑を手伝ったり引っ越しを手伝ったり、トラクト配りをしたり、色々しました。

ひとつひとつがとても楽しくて、みんなで楽しく一緒に、神様のために働くことができたのがとても感謝でした。みんなで朝から夜まで共に過ごし、朝一緒に聖書を読む時間から始まり、共に食べ、共に行動し、共に温泉に入り、共に遊び、共に交わりを持ちました。最後の日には一緒にみんなでグリーンランドに遊びに行くこともできました。そこで私は人生で初めて、宙返りするジェットコースターに乗りました。普通に上から下へ滑るだけのジェットコースターは乗ったことがあるのですが、宙返りするジェットコースターは初めてでした。とても楽しかったです。

受け入れてくださった、岩見沢の方々、また共に行けた仲間達、そして送り出し、祈ってとりなしてくださいました学院の方々にとても感謝します。

そして何よりも導き、共にいて下さった神様に感謝します。ありがとうございました。





旭川チーム 丘の上チャペル



〈メンバー〉

後藤鉄成 大木隆弘

鈴木百合香 落合由美

2021年7月9日～11日

旭川チーム スケジュール

7月9日(金)

8:00 学院出発

10:30 SHIRO カフェ砂川本店で休憩。

ゆりちゃんの好きなブランドのお店に遭遇し、皆のテンションも上がる。

13:00 丘の上チャペル到着

牧師先生から教会設備の説明。荷物整理、休憩。

15:00 途中、30 分ほどの休憩を挟みながら奉仕作業。

牧師先生がブルドーザーで掘り起こした土の中から、使えるレンガを選別。レンガは結構重い。エジプトの奴隷たちの大変さに思いを馳せる。形の悪いレンガを捨て形の良いレンガを選別する過程が、私達の心の聖化の過程と似てる…というような話をしながら作業を進める。(う～ん、神学生っぽいぞ～)。途中で調理係の後藤さんが食料買い出しへ。

18:00 作業終了。夕食作り。

スモークチキンやお菓子など教会の信徒さんから差し入れがいっぱい！米、調味料、ペットボトルのお茶なども教会側で用意してくださいました。感謝。

19:00 夕食・片付け

20:00 ミーティング、伝道集会の準備

22:00 リハーサル

22:30 各自でシャワー＆就寝など



7月10日(土)

7:00 朝デボーション

8:10 朝食・片付け

8:50 スキット、セリフ打ち合わせ

9:10 休憩

9:30 途中で 30 分ほどの休憩を挟みながら作業。

2 チームに分かれ、昨日掘り起こしたレンガを学院バンで運ぶチームと、教会の玄関付近にレンガを敷き詰め作業をするチーム。隣のレンガと形を合わせて、組み合わせる。適材適所。聖書的？な作業。

12:00 作業終了。休憩。外出準備。二階の水が漏れて、一階の天井から床へ・・・。

福森先生に連絡すると、修理に来てくださった。

12:30 スープカレーの店「ふわわ」へ出発。店主の H 子さんに福音を伝えに行くことも、今回のアウトリーチの目的。でも、お店は蔓延防止のためお休み。残念！

そのまま、近くのイオンへ行き、昼食と買い出し。

15:00 教会着。日曜伝道集会のリハーサル・教会の方と打ち合わせ

17:40 休憩 17:50 交代でシャワー、夕食作り、夕食、片付け

20:00 明日の伝道集会へ向けてリハーサル

20:50 各自シャワー＆就寝など

7月11日(日)

7:00 朝デボーション、朝食、荷造り

9:30 教会出発。帰路。途中で休憩や昼食などを挟む

15:00 学院着

18:30 学院の食堂で夕食

7月12日(月)

隆弘の誕生日。学院の食堂で夕方からパンケーキを作る。学院近くのスープカレーの店で皆でお祝い。

7月14日(水)

13:00 伝道集会の動画撮影リハーサル

14:00 撮影開始(タンバリン＆フラッグ/スキット/証)ゆうきが撮影＆編集を担当してくれる

7月16日(金)

8:50 出来上がった動画を紀子先生に見ていただき、旭川の教会へ送る

7月18日(日)

10:30 伝道集会スタート

11:30 伝道集会終了

「コロナ時代のアウトリーチ」

ALPS 生 落合 由美

今回のアウトリーチで、私は、仲間のたくさんの愛を感じました。

私は、アウトリーチに行く前から「一致」ということを意識していました。アウトリーチ直前のキックオフのときにも「一致」を祈り、その時、「御手が私と共にあり」という思いが与えられました。

私は、礼拝当日の朝、微熱があり、そのせいで、礼拝に集えなくなっていました。体力には自信があったので、まさか、体調を崩すとは思いませんでした。その時点では、私以外のメンバーは礼拝で奉仕するだろうと思っていたので、誰かに私の代わりに証を頼めないか…等と考えていました。リーダーが福森先生と連絡をとり合ってくれて、私のために(別室の食堂で)皆で祈りたいと言ってくれました。

しかし、牧師先生の決断は、私だけではなくチーム全員が礼拝に集わず、学院に帰ることでした。牧師先生は、教会の信徒さんを守るための正しい決断をなさったと思います。でも、他のチームメンバーも礼拝奉仕をすることができなくなってしまったのです。

旭川のコロナ相談窓口センターに電話をして相談すると、感染の疑いは低いので熱が下がれば普通に生活していいとのことでした。帰路につくため教会を出発する頃には熱も下がり、普通に生活していい状態になりました。学院に帰ってからコロナ検査をすると陰性でした。

このような状況で、私を車に乗せて、皆一緒に帰るという決断をしてくれたチームメイトに心から感謝します。誰一人、反対する人はいませんでした。また、礼拝奉仕ができなくなって、今まで練習してきたことを披露できなくなってしまったのに、誰も私を非難せず、むしろ、「自分を責めないで」「由美さんの体調回復が1番です」と、言うてくれました。

本当に愛のある素晴らしいチームでした。一人一人に感謝です。主がこのような形で「一致」ということを叶えてくださったのです。それは、私の予想とは全然違う方法でしたが、結果は、願いが叶えられたのです。

また、私達はチームとして、「癒しを必要としている人のために祈りたい」という祈り課題を挙げていました。旭川の人々のために直接会って祈ることはできませんでしたが、一人のチームメイトの腰の痛みのために皆で祈ることができ、9割癒されたという体験をしました。

また、私の癒しのために、チームとそれ以外のメンバーもそれぞれの場所で祈ってくれていました。皆の愛と一致を感じました。感謝です。

後日、福森先生から連絡があり、当日するはずだった内容(賛美以外)を、動画で送ってほしいとのリクエストをいただき、録画して送ることができました。このような形で奉仕できて感謝です。これからの時代、動画配信での礼拝が増えることを考えると、よい学びの体験になりました。

今回、神様の方法は私達の思っていた方法と違いましたが、御手が共にあることを学びました。

コロナ禍の中で、受け入れてくださった福森先生と教会の皆さんに感謝します。

そして、タカヒロ、後藤さん、ゆりちゃん、たくさんの愛をありがとう！！みんな、愛してるよ！！

「小さくても輝く」

2年生 後藤 鉄成

ゴッゴッゴ！！物凄い轟音とともに地面が掘り起こされている。
舗装用煉瓦が山積みになされて行く。
その中から使えそうな煉瓦を選び出していくのだが・・・。
割れたもの、形の悪いもの、小さなものは捨てて形の良いものだけを選ぶ。

人はうわべで見るが、神は心を見る。
形の悪いものでもちゃんと収まるべき場所がある、私たちには役に立たないようなものでも神は目的を持って作られたのだ。神の時に、神の場所で、その輝きが解き放たれ光を放ち自分では想像も出来なかった神の栄光を現わす。

見出した煉瓦を敷き詰めていくのだが、下地をきちんと作らなければいずれは並べた煉瓦もばらばらになってしまう。
信仰も同じこと、はじめはキリストの十字架を見上げ、それが自分の罪の為だと心を揺さぶられた。そこに御言葉の深い神意の理解が必要だし、キリスト・イエスの信仰がなければ御言葉を深く理解が出来ない。そうすると、神なんてばらばらに砕け散ってしまう。
整地をしながら思うことは、地面に跪き、邪魔な石を取り除ける、この石は自分の意思・自我なのかもしれない。
そして固める、煉瓦がずれないように。

煉瓦は形の良いもの、見かけの良いものを救い上げて来た、一つ一つは輝いているが組み合わせると隙間が出来てしまう、ただ並べるだけでは上手くいかないのだ。少しずつしたり、向きを変えたり、相性があるようだ。そのうちどうしても埋められない大きな穴が出来てしまう。そこには、掛けた、割れた、半分の煉瓦が必要だ。見かけは悪く使い物にならないような煉瓦でも実はとても重要な役目を持っている。
私たちも神の教会として集まり神の働きをするとき、一人だけ輝いても、輝き続けることは出来ない。人は一見目立たないが実は大切な働きをする賜物を神から与えられている時に、光が輝きはじめる。その存在は決して無駄ではなく全てに神の摂理を見出すことが出来るのだ。

再び煉瓦の山の前に佇むと、信仰の目によって見えてくるものがある。割れたもの、形の悪いもの、小さなものが輝いて見えてくる。それは自己主張ではなく、神の光を反射して輝いているのだ。先ほどと同じ煉瓦の山を見ているのに・・・。

「神の権威に生きる」

それは突然、聖日の朝であった。

体温が高い、もしかして…。

一瞬脳細胞が停止したような空白な時間が流れる。

皆の体調はどうなのか、暫く様子を見るか、牧師への連絡はどうか。

いや、礼拝まであと 5 時間ある。この間に最悪な状況を想定してベストな方法を模索する。

リーダーとの相談で迅速に情報を牧師に連絡して共有することにする。

当日のことなので、一刻も早く判断の時は早ければ、それだけ対処の選択肢も広がり被害も最小で抑えられ、それは何よりも教会を守ることになる。コロナ禍の中で伝道集会を開くことを決断された福森牧師の思いをおもんばかると、今まで準備してきたことにこだわるより権威に従い勇気ある撤退もやむを得ない。

私の山の経験から、遭難はパーティーメンバーがひとり離脱して別行動をとることが原因で起こる事が多いのです。互いに励まし合い一つとなることが大切です。

ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

I テサロニケ 5:11

私たちチームは一つとなり互いに励まし合い、神に委ねて行こうではないですか。

振り返ると、体温は下がり問題は無くなりましたが、この件で、私たちの権威に従うという信仰は強められたのではないのでしょうか。

また、目の前の問題ばかりに関心を向けると、その本質を見失うことがある。問題の原因は何だったのか考えてみる必要があります。このことが、今後の信仰生活で有意に働けばよいと思います。自分自身に対しても問題の本質を見極める判断力を神さまから頂かなければならない。

「神様の御心って何だろう？」

2年生 鈴木 百合香

このようなコロナ禍にあって、私たちを受け入れて下さった神居キリスト教会の牧師先生ご一家と教会の皆さんに心から感謝致します。今回は、残念ながら日程を全うすることは叶いませんでしたが、それでも私たちは教会の愛と祝福をたくさん受け、充実した3日間を過ごすことが出来ました。丘の上チャペルは町から少し離れた小高い山の上にあり、山、木、空、雲、花、緑に囲まれたとても自然に恵まれた会堂でした。部屋も一人ずつ与えて下さり、私の部屋には大きな鏡のついた白いドレッサーと、衣装ダンス、花柄のカーテンがありとても嬉しかったです。たくさんの食料、調味料、お菓子の差し入れ、メッセージカードもありありがとうございました。

1日目は土の中からレンガを掘る作業をしました。とても力のいる作業でしたが、神様が力を与えて下さって成し遂げることが出来ました。2日目はそのレンガを教会の玄関に敷き詰めました。泥沼から救われた一人一人が、キリストの体の一部として組み込まれていくことを思いました。

去年、旭川でお会いしたスープカレー屋さんのH子さんに今回も会って伝道集会に誘うつもりでしたが、残念ながら蔓延防止対策のため11日(日)までお店を閉められていました。5月に個人的に旭川に旅行した際もお話していて心が開かれていたのを感じていたので、今回も期待していたのですが残念でした。

今回の旅ではデボーションで語られたことや起こった出来事、スケジュールの変更などを含めて、神様の心や計画は私の思いとは全然違うところにあるということを学びました。私は目の前の出来事の成功に目を止めがちですが、たとえ伝道のような良いことであっても神様が止められる時があるのだと知りました。そして神様の御心はそんなことよりも、目に見えないこと、愛することや赦すこと、受け入れること、従うこと、そして「神の御心は何かと求めていくこと」だと知りました。また今回、1000枚のチラシを印刷し、未信者の方々にもたくさん声をかけ、私たちを受け入れ準備されて来た伝道集会を延期するというのは福森先生や教会の方々にとっても大きな決断だったと思いますが、その大胆な決断をされた先生のリーダーシップも自分には印象的でした。また、予定していた伝道集会のプログラムは映像で翌週の礼拝で流して下さいというアイデアも有り難かったです。感謝でした。

いずれにしてもスープカレー屋さんが閉まっていたのも、微熱であっても礼拝に出ることすら叶わないことも、今回はコロナウイルスの影響を沢山感じました。これまであまり感じていなかったのですが、教会の伝道や礼拝、大切なことがどんどんコロナで難しくなっていると分かり、すごくショックでした。一刻も早いコロナウイルスの終息を祈ると共に、真に主の御心は何なのかこれからも求めて生きたいと願わされました。

一緒にチームで過ごしてくれた、たかひろくん、後藤さん、由美さん本当にありがとう！

「イエスから目を離さないでいなさい」

2年生 大木 隆弘

今回のアウトリーチ、このようなコロナ禍の状況の中受け入れて下さった福森先生はじめ、丘の上チャペルの皆様、また送り出して下さった鍛冶川先生ご夫妻、また共にチームとして貴重な時を過ごして下さいました後藤さん、由美さん、ゆりちゃん。

またとりなして下さった全ての方に心から感謝します。

今回のアウトリーチ、チームメンバー決めの時から最後まで主が働いて下さっている事を感じました。

このアウトリーチを通してたくさんの経験と学びがありましたが、特に自分の心に残った事は主に2つです。それは「主にいつまでも忠実にある事」と「福森先生はじめ仲間の温かさを受け取った」アウトリーチでした。

今回のアウトリーチではなかなか当初の計画の通りには行かない事が多くありました。一時の思いなどではなく祈って祈って準備して準備してやった事がこんなに計画通りに進まない事が重なる事は僕の信仰生活の中で初めての体験だったかもしれません。

“学院アウトリーチ心得”の中で権威者である鍛冶川先生からお伝え頂いていた、【柔軟に対応しましょう。急な計画変更こそ神のみわざが現れるときです。その時こそ出来ないとか慌てるのではなく「はい。喜んで従います。」と従い、トラブルが起きたらまず感謝しましょう】というこの言葉がずーっと自分の心にありました。

礼拝を教会で出来なかったことや、スーパカレー屋さんの店主 H 子さんに福音を伝えることが出来なかったことを含め、当初の計画通りに進まない事が多々ありましたが、僕の心にルカ 16:10【小さいことに忠実に】という御言葉と共にまさにこの心得の言葉が思い起こされました。

そして主に祈り求めていく中で主が慰めて下さり、
「自分が期待する祝福がたとえなくてもイエス様あなたに従いたいです。」
「自分が望む祝福がなくてもイエス様あなたに従いたいです。あなたの御心だけが成されますように」という心を主が与えて下さいました。そして祈り求めていく中で何より主の御心に従うことが祝福なんだという事を心から思いました。

主の思いは僕の思いとは全く違いました。

そして主は当初自分で全く思いもしていなかった祝福を与えて下さいました。
それは、今回リーダーをさせて頂きいっぱいになっていた私の内にあった【自分で背負い込もうとする心】に光を当てて下さり取り扱って下さいました。
このアウトリーチ期間中、主からまたチームメンバー含め仲間が沢山助けて下さいました。ある時は寄り添ってくれて、ある時は励ましてくれて、ある時は迅速な判断を要するときに助言を与えて下さり、あ

る時は祈りで支えてくれました。また、毎食のように食卓を囲み家族のように交われた事はすごく温かく安らぎの時でした。改めて自分は 1 人で生きているのではない！という事を受け取りました。また自分はキリストのからだの一部でありお互いに尊重し合い共に支えあって行く事の大切さを感じました。こんなに素敵な信頼できる仲間がいることに心から感謝します。

また福森先生や教会の方々もこのような状況の後でも、「本来 11 日の礼拝で行う予定だったものをビデオで送ってください。それを 18 日の礼拝で流します。本当はまた来週も来てほしいですが、皆さんの都合もあると思うので是非ビデオで!!」と仰って下さったことに物凄い愛を感じました。教会の皆さんの差し入れやお心遣いに心から感謝します。

そして何よりもいつも愛し寄り添い、養って下さっている主に心から感謝します。

最後に今回のアウトリーチを通して【私は主のものである&イエス様を見つめ続ける】という事を受け取りました。

“知れ。主こそ神。主が私たちを造られた。私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である”詩編 100:3

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。

ヘブル 12:2

今回のアウトリーチで学んだように、これからの人生においてどんなに自分の思い通りにならなくても、困難の中にあっても、私のためにいのちまでかけて下さり、そしてよみがえられた主が私と共におられる。何よりも主の思いは私の思いより高い。自分の思いや目の前の状況や問題ではなく主に目を向け主に期待し主の御心が最善であると信じ忠実に歩んでいきたいと思います。すべてに感謝します。主に在って。

朝のデボーション&モーニング



教会の皆さんから差し入れ感謝



ランチ&ディナー



奉仕



タンバリン&フラッグ



スキット撮影中



長崎アウトリーチレポート！

小米良 謙明
木原 エルサレム
本間 章宏
屋良 直志
濱田 めぐみ
島勝 愛

2021年7月9日～13日



7月9日 金曜日 一日目

7:15 集合 祈って、みんなで写真とって、送りだしてもらう^^
7:38 発のバスに乗る！
8:48 JR 新千歳空港行に乗る(なおしくん人生 5 回目の電車祝)
9:30 新千歳空港着
10:35 福岡行き新千歳空発✈
13:10 福岡空港着！その後レンタカー手続き
15:00 山本村到着ー殉教のお話とお祈り
16:00 はまかつ！濱田と島勝のコラボ！美味しいカツと、先生方との素晴らしい交わりの時間
18:00 彼杵 ー殉教のお話とお祈り
19:30 西坂 ー殉教のお話とお祈り
20:00 ラジオ生中継(ゴスペルトーク with You!!!)
21:00 ホステルチェックイン！ 想像以上に素敵なホステルすぎてテンションあがる
21:30 デボーション

7月10日 土曜日 二日目

8:00 朝デボ 1ヨハネの手紙 3章 のりくんリード
10:00 近くの東急ハンズにて買い物→昼ごはん迎えにきてくださって、教会に向かう
13:00 教会でリハーサル開始
15:00 web コンサート。コンサート後、教会員さんみんなとの交わり！
18:00 その後すぐ、路上ライブに向かう。出発するとき雨止むも、到着するとまた雨降り出す…
しかし私たちは、とにかく賛美する！6曲くらい賛美して、断念。でも感謝！一度車で家に帰る。
車の時間もめっちゃ祝福された～すぐ準備してえるくんのだいすきな、ミスターマックス！！
リンガーハットでちゃんぽん♪夜、今日の働きの実りのための祈りと、明日の礼拝のために祈る。ぐっすり眠れて休めて明日も守られるように。

7/11 日曜日 三日目

5:30 起床デボーション えるくんリード 士師記 6章
7:30 第一礼拝 えるくんとあっきーの証
10:00 第二礼拝 なおしくんとのりくんの証
12:00 みんなとお弁当昼食タイム
14:00 第三礼拝 愛の証
15:30 international 礼拝 めぐみさんの証
愛とあっきーとのりくん、純子牧師、いずみさんは共に祈りそれから路上賛美へ
17:30 教会を出て、お寿司をテイクアウト。コンビニもよって帰宅
19:00 夜ご飯！ 島勝愛の誕生日！
ケーキたくさんでお寿司もおいしくってみんなでたっくさん笑って幸せ 100%
21:00 デボーション あっきーリード 雅歌一章

7月12日 月曜日 四日目

8:00 デボーション なおしリード ヨエル二章

10:00 出発 中華街！角煮まんを食べる。散策してから餃子の王将にてランチ

14:00 二十六聖人記念館

14:30 長崎平和資料館

15:30 長崎原爆資料館

17:00 浦上天主堂

18:00 ホステル帰宅、準備して温泉へ

19:00 稲佐山温泉 山の上の温泉。景色が美しすぎて感動

20:30 合流して温泉でみんなでそのまま夜ご飯！たくさん笑って楽しい時間

21:30 稲佐山の夜景を見に行く

運良くイルミネーションとハートの形のライトも発見！！神様すてきな時間をありがとう

23:00 みんなで感謝の祈り

7月13日 月曜日 五日目

7:00 デボーション めぐみさんリード イザヤ 55 章

9:00 ホステル出発 長崎駅へ

お土産を買って、みんなで祈ってから福岡へ向かう組と長崎に残る組に分かれ、解散。。☆

「学び豊かな長崎アウトリーチ」 2年生 小米良 謙明

2021 年度アウトリーチ、僕が主に示された地は長崎でした。今年のアウトリーチ先の候補の中で唯一の道外で、コロナ禍ということもあり行くだけでリスクの伴うアウトリーチでした。そんな中快く迎え入れてくださった長崎エルサレム教会の牧師先生方、信徒の方々に本当に感謝でいっぱいです。また、僕たちが派遣されることを、祈りを持ってとりなしてくださった方々に心から感謝します。祈りなくしてアウトリーチはできないことを考えると、多くの祈りに支えてもらっていたことを実感しています。経済的にも支えてくださったことも感謝いたします。アウトリーチ先から帰ってきて数日後にはこのレポートを提出しないといけないので、学んだこと、得たもの全てを書き切れる自信はないですが、人生を通してこのアウトリーチで学んだことは生きた財産としてあり続けると思います。

今回、4泊5日と決して長い期間ではないですが神様に長崎に派遣され、学ばせていただいたこと、そして仕えさせていただけたことを本当に感謝しています。また、長崎という地でしか学べないことを沢山学ばせていただきました。今回、僕は長崎に導かれて行きましたが、主の導きと共に僕自身もすごく長崎に行きたいと思っていました。なぜなら、長崎で起きた殉教のことを一年時に学び、殉教された信仰者としての先輩である方々が信仰を貫き通した地を、この目で、その肌で感じたいと思っていたからです。また、僕自身が福岡出身で、学院のアウトリーチで九州に派遣されることは主の偉大な計画を感じていました。幼い頃信仰を持った地に神学生として戻ってくることなど想像もできませんでした。

僕がとても印象に残っているのは二十六聖人が京都から長崎に連れて来られる時に辿った地、「山本村」という記念碑や記念館など一切ないところでした。この山本村は殉教者の一人が主こそ自分の主であることを告白した地であり、主の臨在あふれる地でした。そこで少しの間祈っていると、自分が主のものであり、主こそ自分がついて行くべき方であることを認めることの喜びを感じました。山本村で信仰を貫いたルドビゴ少年は 12 歳でしたが、その信仰は強く、主こそ神であることを自然に口にできる人だと思います。山本村で歩きながら祈っている時、川が流れるように、植物が育つように、鳥が鳴くように、自然が自然としてあり続けるように、主を神として告白する者になりたいと思いました。

また、四日目に行った浦上天守堂も主の臨在を強く感じる場所でした。中に入り奥に歩いて行く中でこの会堂で捧げられた祈り、何より会堂で祈れない時も大きな声で祈ることを待ち望んでいた人々の祈りのゆえに浦上天守堂が建てられたことを思うと目頭が熱くなり、祈れることの喜びを心のそこから感じました。アウトリーチの五日間でクリスチャンとして生きていることがどれだけ感謝なこと、祝福なのかを何度も思い知ることができました。クリスチャンの殉教と迫害の歴史、また戦争で長崎の人々が受けた傷を知ることは僕のクリスチャンとしての歩みにとってとても大切なものでした。また教会で仕えさせていただけたことも本当に感謝でした。今回のアウトリーチは主が始められ、主が導き、主が終わらせてくださったものだと思心から感じています。もちろんアウトリーチは学んだことを証してまでがアウトリーチなのでまだ終わってはいませんが、主の御心だったことは疑う余地のないものだと思っています。まだまだ書きたいことは沢山あります。あと 5 枚でも足りないと思います。それほど今回のアウトリーチは学ぶことに溢れ、主の愛とあわれみ深さを経験させていただくものでした。長崎に遣わしてくださった主に心から感謝します。

「祝福に溢れた5日間」 2年生 島勝 愛

ハレルヤ。神様にまず心から感謝します。本当に今回のアウトリーチは、はじまりから最後まで、神様がひとつひとつ、守り、導き、また聖霊様を通して、神様御自身の力を現してくださった日々でした。わたしが、聖霊様に依り頼み、聖霊様を体験するスタートとなったのは、もう、アウトリーチの前の、準備の段階から始まっていました。わたしには、証をする力もありません、そのような信仰もなく、本当に自分は何もできないと言ってしまうような人間です。神様に何を話したら良いかと聞き、神様は自分の思っていなかったことを話すように示されました。それでも「できない、できない」と祈る中で、神様は知恵をくださり、また神様がしてくださったことを改めて思い出させてくださいました。何より、自分自身でもびっくりするような、聖霊様が語りたことを語ってくださるとは、こういうことなのだと、それを体験するように、証の動画を準備する段階から、神様は本当に助けてくださいました。撮った動画を何度聞いても自分が語っている言葉というより、ただ他の誰かが語っているような感覚でした。そして、自分ではっきり意図して話すつもりではなかったこと、その語っていたことは「永遠のいのち」についてでした。しかし、それがはじまりであって、何よりその永遠のいのちを思い、信じ、この地上のいのちをその永遠のいのちのために生きていくこと、イエス様のために生きていくこと、何より神様がわたし自身に様々な角度から教えてくださるアウトリーチでした。

長崎エルサレム教会の牧師さんである、イザヤ牧師が書かれた、殉教の本を読み、また実際に、初めにイエスさまのために血を流し殉教していった 26 聖人の話を聞きながら殉教の地を巡り、祈れたことは、本当に素晴らしいことでした。映画の「沈黙」で描かれているような、殉教者たちのただ暗く見える死は、少なくとも 26 聖人たちにとって、実はまったくそうではなかったことを知りました。彼らは天の故郷へ帰ることを思って、喜びに溢れて死んでいったのです。そのような十字架の前で未信者である観客は、4000 人ほどいて、殉教者たちのその姿を見て、主イエスを信じた人が多くいました。「クリスチャンが天国があるというその喜びを知らないこと、それほど虚しいことはない」エルサレムくんは前メッセージしてくれました。本当にそうだと、気づかされる時でした。

また、殉教者である 26 聖人のお話の中でこのことも私の心に残るものでした。26 聖人のリーダーである、ペテロ・バプチスタ神父は、殉教の直前、涙を流しました。その涙は死が怖いからでも、自分のいのちが惜しいからでもなく、「この日本は一体この後、どうなっていくのだろう。この国の、まだキリストを知らない人たちは、どうやってキリストを信じることができるのだろう」と、まだ救われない魂を思っただけの深い苦しみの涙でした。しかし、それを見ていた周りの役人たちは、「あの人は死ぬのが怖くて泣いているのだ」と笑ったのです。それを知ったバプチスタ神父は今度は逆に、ぐっと涙を堪えたのです。それは、まだキリストを知らない人につまづきを与えたくないという思いからでした。

永遠の命である方、イエス様を伝えるために生きて行くこと、それは、このように全てを捨て、自我を捨て、自分自身を捨てること、これからも日々、必要だと思います。それは決して簡単なことではないです。そして自分の力ではできないことも多くあると思います。神様がこのアウトリーチを通してわたしの心を今一度、一新してくださいましたので、それを決して忘れたりせず、見つめ続け、神様に私のできる限りを尽くして応答していきたいです。

神様が新しくわたしに教えてくださったこと、見せてくださったことは、ここには全然書ききれません。この 6 人のメンバーで行けたことは、本当に祝福であり、本当に主の一致がメンバーの中にありました。ただただ祝福された 5 日間であり、ひとりひとりが多くのことを受け取り、ほんとうに多くの人の祈りのお陰であることを感じました。心から、感謝します。また、私たち 6 人を受け入れてくださったイザヤ牧師、純子牧師、ヨハネ牧師、長崎エルサレム教会のみなさま。心から感謝いたします。なによりもいつも聖霊様に依り頼んでいる先生方の教会で仕えることができたからこそ、たくさん聖霊様の恵みにあずかることができました。この五日間はわたしにとって何にも変えることができない日々です。心から感謝いたします

「短期間でも育てられた主への信頼」 2 年生 濱田 めぐみ

今回長崎チームに参加できたことを主に心から感謝します。私も長崎出身ですが、今回訪問した場所は平和町にある長崎エルサレム教会というエルサレム君の母教会でした。この場所は浦上地区という場所にあるキリスト教にとってはとても重要な場所である事を教会の牧師のイザヤ師の奥さんである純子先生から聞きました。26 聖人が京都から長崎に歩いてきた時に通った街道の前に教会が建てられていて、また浦上地区はクリスチアの街で多くのクリスチャンが殉教した場所であり、また原爆が落とされた場所でもあります。

そのような場所に教会が建てられ、浦上のクリスチアの子孫のためにとりなしておられる事を見て、牧師ご夫妻は長崎出身でもないし、長崎にゆかりもなかったのに教会を建て主の働きをされている事は主からの召しであり、その召しは今だけのものではなく、これからも主にこの召しに対して呼ばれた方々へと引き継ぎ継承されていくとても尊いものであると思いました。26 聖人の辿られた跡、彼らの主への信頼と死んでも生きるという信仰、原爆資料館、また岡まさはる記念長崎資料館も訪問しそれぞれの場所でたくさんの事を教えられましたが、今回のレポートでは個人的に主が私に関わってくださった事に焦点をあてて記させていただきます。

信頼して手放す

今回私はインターナショナル礼拝にて人生で初と言っていい英語での証をさせて頂いた。当初準備していた救いの証は日本語であったが 20 分くらいかかってしまい、アウトリーチ前のミーティングで「証は通訳なしで 10 分。」と聞いたので 10 分で納まる証をするか、救いの証を 10 分に削るか祈っていたが、やはり救いの証ではなく最近主が私に教えてくださった主の思いを証することに決め出発の前日に準備した。証を英語でワードに起こし読んでみたが、8 分で済んだので「これで一応は大丈夫だ！」と思いそのままアウトリーチへ出発した。日曜日の第 4 礼拝の前にイザヤ牧師に原稿を読んだら 8 分になる旨を伝えると「読むことだけはやめてね。」と言われ、それから礼拝賛美の時間に入った。わたしは「どうしよう！原稿を見ずに英語で話す練習はしてない。。。ピンチっ！」と焦り、自分の中では「英語は私の母国語ではないし時間内に終わるためにも読んでもいいだろう。」という甘えがあったが、賛美中に

日本語でアウトラインだけでも記し、それを見ながら話そうと思い、アウトラインだけを記しはじめた。しかし、それをやっている時に「何か違う。。」と違和感を覚え「主にどうしたらいいでしょうか。」と祈っていたが、その記録作業していたスマホ自体を手放すことが正しい道のように思えて、スマホを椅子の上に置いて手放した。しかし、原稿なしで話す場合、少し詰まったりすることもあり時間内に終わる自信がなく、焦りとどうしようという思いがまだあった。スマホを手放すことは大げさに聞こえるかもしれないが、私にとっては水の上を歩くような感覚で、「主よ～！」と主にすがるしかなく、心で主に叫んでいたが、「主が導いてくださる。聖霊さまがわたしの語るべきことを時間内にすべて導いてくださる。主がお世話してくださる。」という思いが心に与えられた。それでスマホ原稿なしで証を始めた。始まる時はもう主にゆだねることができていて、途中詰まったりもしたが、主が私にしてくださったことを時間よりもほんの少しだけ過ぎたがシェアすることができた。

イザヤ牧師がもし「原稿、読んでも大丈夫だよ。」と言われていたら私の主へ信頼する心は全く育たなかったと思うが、このような短い間に起こった出来事からでも、主は私の主への信仰を育ててくださったことを心から感謝し主をほめたたえます！

今回長崎で教えられた事は 1/10 もここでは記す事ができていないが、私の地元も長崎でその地に重荷があるので、このアウトリーチはこの夏で終わるものではなく生涯において私も心に留めて更にキリシタンの信仰から学び続け彼らの子孫のためにも祈り、またエルサレム教会の働きを覚えて祈らせて頂きたいと思った。殉教者の主に対する心を時間を惜しまず伝えて下さったイザヤ牧師、純子牧師、写真を撮り続けて下さったヨハネ副牧師、送り迎えして下さいましたいずみさん、献身的に仕えて下さった全ての教会の牧師さん方、教会員の皆さん、本当に私達を受け入れて下さり、本来は仕えるべきは私達であるのに、たくさんの学びの機会を与えてくださり心から感謝します！そしてこの機会と道を開いてくださった主に心から感謝致します！

「長崎アウトリーチレポート」 2年生 木原 エルサレム

見よ。あなたの知らない国民をあなたが呼び寄せると、
あなたを知らなかった国民が、あなたのところに走って来る。
これは、あなたの神、主のため、また、あなたを輝かせたイスラエルの聖なる方のためである。
イザヤ書 55 章 5 節

当初、アウトリーチ先の候補では無かった、長崎エルサレム教会がアウトリーチ先になったことは、私にとって、恵みと奇跡の連続でした。私自身、母教会である長崎エルサレム教会をアウトリーチ先として奉仕のために帰ることは、奇跡的なことでした。CFNJ 聖書学院に入学した時も、二度と母教会へは戻りたくないという思いで入学したのですが、この学院で生活をする中でどれだけの愛を「母教会」から受けたのかということに気付かされたのです。特に今回の派遣で、母教会を全く違った角度から見ることができ、生まれ育った教会のはずなのですが、初めて行く教会のような感覚を覚えることができました。また、「苦しみ」の記憶しかない長崎の地が、愛する兄弟姉妹である「学院生」と共に来ることによって、全く違う土地のように感じました。神様の愛を深く感じました。16 歳の時につけた自分自身の賛美チームの名前が「エフライム」でした。エフライムの意味は神が私の苦しみの地で私を実り多い者とされたという意味です。そのことを思うと、主の成してくださることは時にかなって美しいんだと、実感しました。主は、私をたくさんの学院生と共に長崎へ帰してくれました。北は北海道、南は沖縄まで、日本中から、長崎エルサレム教会へ送って下さいました。以前は神のしもべ長崎教会でしたが、まさに名前の実質どおり、長崎エルサレム教会として、たくさんの人が集う教会となるのだと確信することができました。

日本最初の殉教者たち 26 聖人たちの中には、イエズス会やフランチェスコ会など、立場の違う人たちが集いました。今回長崎を選んで来てくれた学生は私含め6人、みんな立場が違いました。しかし、長崎チームに強い御霊の一致を感じました。旅は終始笑いと聖霊の臨在が絶えませんでした。毎回のデイポーションの時、祈りの時、ただ神様に感謝します。また、強く祈られていることを実感しました。たくさんの方が祈ってくださっていてくださったことを感じました。本当にとりなしの祈りを感謝します。反省点を言えば、たくさんの方の御霊を受けた長崎アウトリーチでしたが、私たちは教会へ何か与えることができたのだろうか、ということです。本来奉仕に行くものなので、そのことが少し気掛かりではありました。証や路上ライブなど、もっと準備をすることができれば良かったと思いました。ただ、ただ、最初から最後まで本当に長崎エルサレム教会に感謝します。殉教地をガイドして下さり、ラジオやコンサート、証の機会を与えてくださった長崎エルサレム教会の皆様本当に感謝します。そして、長崎を選んでくださった学生の皆さんに本当に感謝します。素晴らしい体験と濃密な時間でした。何よりも、私たちを主権を持って導いてくださった主イエスキリストに栄光をかせします。ハレルヤ！また、新しい地へと遣わされていきます。私たちの国籍は天にあり、天から遣わされた者です。この地上では寄留者として生きていきます。ハレルヤ！！

「長崎アウトリーチを終えて」 1年生 本間 章宏

今回、アウトリーチを通して多くのことを自分は学びました。

受け入れてくださった教会の聖霊に対する姿勢や牧師の神に信頼する態度、また朝夕のデボーションにおいても日々学びがありました。しかし、その全てを記載するにはこの紙面だけでは少ないので、この紙面においては、長崎特有である『殉教の地』としての長崎から学んだことを分かち合いたいと思います。

長崎という地は日本で最初の殉教が起こったことで有名な土地です。江戸時代、二十六人のクリスチャンが京都から長崎まで1月かけて連れていかれ、長崎の地で十字架にかかって殉教しました。

今回のアウトリーチでは、その殉教の旅を辿るように福岡→長崎間を進んで行きました。

初めに行った土地は山本村という場所でした。村とついているが村落なわけではなく、ただの川辺です。しかし、この地で若干12歳の少年がこの世の富ではなく、キリストへの愛を選択しました。

この場所で祈りの時間を持った時、正直なところ、自分は何も感じることはありませんでした。これからのアウトリーチのために祈り、学びを受けることができるようにと祈るのみでした。

次に向かったのは彼杵(そのぎ)という場所でした。ここでは、リーダー的な存在であったペテロ・バプテスタ牧師がこれから死ぬことでもなく、故郷を思ってもなく、救われていない日本人のために涙した場所でした。

海に面したこの場所に着いたのは日の傾いた夕方のことでした。空は全体的に曇っていて薄暗かったが、日の沈む太陽を覆い隠すほどではなく、雲間から漏れ出す光は天の扉が開かれたかのように幻想的でした。

その時に、ふと「彼らもこんな風景を見たのではないか」と感じました。もちろん、その光は太陽の光でしかないのだが、その向こうにキリストの栄光と力を見たように感じたのです。

彼らは、誰一人として死に対する恐れがありませんでした。彼らにあるのは、天国に対する希望だけでした。ペテロ・バプテスタ牧師も天国に対する希望があったからこそ、「故郷の人や家族には天国で会える。しかし、キリストを知らない日本人には天国で会うことが出来ない」と悲しんだのでしょう。

今まで、自分の中に天国に対する安心感はあっても、それによる希望や喜びは薄かったように思います。「キリストを信じているから天国に行ける」「自分は助かっている」そのような考えから来るものは安心や安堵であり、負の感情から0に戻るという意識でした。しかし、天国への希望とは負から正へと向かっていくものであり、0で止まるようなものではありません。

自分は、この彼杵の地で祈り、天から差し込む光を見た時に、その希望から来る喜びが溢れてきました。死にむかっていく人たちから喜びを受け取ったのです。

この時に、初めて殉教というものが自分の中で現実味を帯びていきました。

「自分にも殉教の使命がある」勿論、実際に出て行って宣教の故に殺されるかは分かりません。しかし「キリストのために死ぬ」という自覚が自分の中でより一層増し加えられたのです。

長崎市内にある二十六聖人の記念碑には『自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい(マルコの福音書 8:34)』と書かれています。自分も、キリストに召し出されたものとして、自分の十字架を背負ってついていきたいと改めて思われました。

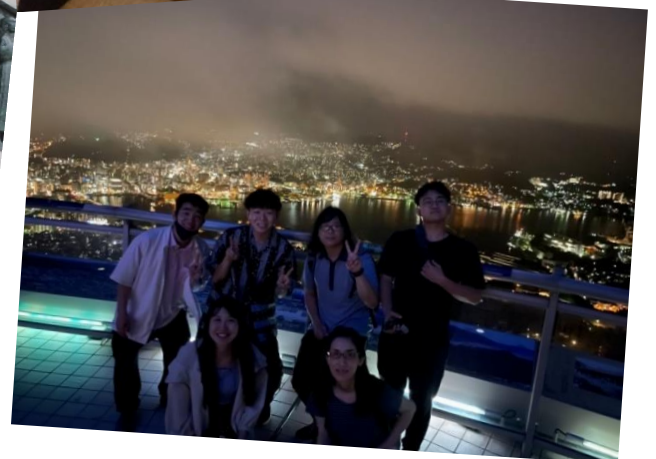
「喜びに満たされた殉教」 1年生 屋良 直志

今回、入学当初から全く何をするのが分からなかったアウトリーチがついに始まりました。私たちのグループが一番最初に出発ということで、学院のみんなに祈ってもらい見守られながら空港に向かいました。長崎でのアウトリーチのテーマは殉教で、日本で最初に殉教した日本二十六聖人の通った軌跡を中心に訪れて行きました。最初に着いたのが山本村というところで、ここは 12 歳の少年が「信仰を捨てればなんでも好きなものを買ってあげ、自由な生活をさせてあげる」と言われ、少ない人生の楽しみよりも永遠の喜びを選んだ場所でした。12 歳の少年が死を恐れずにこのような選択をしたのに私はとても驚きました。この場所で 15 分ほど祈りました。他にもいろいろ訪れたのですが、印象が強いのは二十六聖人殉教地です。ここは実際に二十六聖人が殺された場所です。殉教にはどうしてもネガティブなイメージがありますが、彼らの死は悲しみではなく喜びに満たされていました。彼らは何度も「信仰を捨てれば助けてやる」と誘惑されながらもそれを断り自ら死を選んだのです。こう聞くと彼らは素晴らしい信仰の持ち主のように思えますが、実はそうではなかったというのにも驚きです。彼らの多くはいわゆる落ちこぼれだったそうです。しかし、そんな中でも彼らのうちにいる聖霊が働いたことにより彼らが強められ、そのような選択をしたのです。二十六聖人ではないのですが彼らの殉教の後に、迫害がさらに激化してきた頃、多くのクリスチャンの指導者が捕らえられ拷問にかけられました。その中でも背も体格も小さく指導者の中で最初に信仰を捨てると言われていた人がいました。自身も最初に信仰を捨てるだろうと言っていました。しかし、彼は唯一拷問を耐え抜いたのです。これは聖霊様に他なりません。二十六聖人の跡地を巡ってこれらのエピソードを聞いたときに厳しい試練の中にこそ神様が働いて私たち弱いものを神の勇者にするのだと私は思いました。

また、今回のアウトリーチは本当に神様が私たちを守ってくれました。詰め詰めのハードスケジュールの中、大きな問題もなく一人も体調を崩すことなく無事に過ごす事ができました。それはアウトリーチ前からチームで集まり祈りの時間を持ち、長崎エルサレム教会の牧師先生方とも ミーティングや祈りの時間を多く持ったからだと思います。今回のアウトリーチでは金曜日のラジオ、土曜日の web コンサート、日曜礼拝の時間、計 3 回の証をさせてもらいました。母教会にいたときは証をほとんどした事がなく緊張すると思っていたのですが、一言話すと自然と緊張がなくなり、伸び伸びと証する事ができました。そこに神様が働いてくれたことに感謝します。

また、毎朝毎晩のデボーションも欠かさず行いました。デボーションを通して神様が働いて、一人一人の心に語りかけてくれました。私がリードの時、どこの御言葉を読めば良いのか絶対に決められないと思っていたのですが、ここだという箇所が示されました。そしてその御言葉を通してチームの一人一人のうちにも示されたものがあり、そのことをいっぱいシェアできました。この出来事から私はデボーションがとても好きになりました。今まではただ朝のデボーションに出ていました。確かに示される思いはあったのですがそこまで響きませんでした。しかし、自分で読む箇所を選ぶとなった時に神様の導きを直に感じて自分の中のデボーションに対する思いは 180 度変わりました。

今回の長崎アウトリーチを通して本当に多くのことを学びました。二十六聖人が死ぬ時にそこに集まった約 4000 人のリスチャンが共に賛美し、そこに主の臨在が現されたように、どんな時でも主に感謝し、賛美しながら歩んでいきたいです。





Special Thanks

このようなコロナの時にも関わらず、受け入れてくださった牧師先生方

小樽ベテルキリスト教会 松本浩志牧師&由香夫妻

岩見沢シオンキリスト教会 Joshua & Haruka Roth 宣教師夫妻

旭川神居キリスト教会 丘の上チャペル 福森光敏&トシ子牧師夫妻

長崎エルサレム教会 イザヤ木原真&純子牧師夫妻

及び信徒の皆様、執り成し祈ってくださった皆様

全ての賛美と感謝と栄光がイエス・キリストにありますように。

